

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第1回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和3年7月26日(月) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外部委員：16名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者：11名
配布資料	① 会次第 ② 委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 2021(令和3)年度第1回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑤ 職業教育における質保証に関する事例報告(文科省専修学校の質の保証・向上に関する調査研究者会議(第22回))PP資料 ⑥ 令和2年度自己評価報告書

会議録	<p>1. 開会の辞・事務局紹介(事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ井坂副校長の司会により開会が宣言され、配布資料の確認が行われた。</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ白井校長より挨拶が行われた。</p> <p>3. 委員紹介 井坂副校長より本日の会議予定、配布資料の確認のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。</p> <p>4. 議長の選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、ITBook テクノロジー(株) 渡邊和彦委員が委員長および議長に再選された。また副委員長として(株)miwa 安藤拓也委員が、書記として日本電気(株)藤沼俊則委員が選出された。</p> <p>5. 開催要件の確認 事務局より外部委員 16名中16名、学内関係者10名、総計26名が出席。委員の半数以上の参加があることが報告され、本会が成立していることが確認された。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1)第一号議案：令和2年度第2回会議議事録の内容についての確認 議長は事務局に対し、資料③に基づき前回議事録の確認を指示。井坂副校長から説明があった。その後議事録について出席者に確認を図ったところ、全員一致で齟齬がないことが確認された。</p> <p>(2)第二号議案：2020(令和2)年度事業報告 白井校長より以下の報告がなされた。</p> <p>1.新型コロナウイルス感染拡大防止に関する報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業発表、卒業式、海外研修等の各種イベントを中止せざるを得なかったが、指揮系統の対応(Tree状)、授業の対応(Web状)双方の関係がうまく機能した。 ・双方向性のツールを利用した遠隔授業と、シートカルテシステムのメリットが適合。遠隔による就職活動、企業との連携に新たな発見があった。 ・一方で出席は良好であるものの、定期考査結果が芳しくなかった。突然退学を切り出す学生の存在などもあった。この原因としては、日々のフォローアップがこれまでのようにできない。宿泊研修や保護者会などの中止による本人、家庭との関係構築の遅れ。教員と学生間の意思疎通の低下が考えられる。 ・授業PDCAのうちCAが弱いことから、これを改善する手法につき、各教員研究にて検討実施。 ・専門学校のこれからの学びを準備するための研究会(専門人材未来会議)を開催。コロナ禍の経験や課題もこれに盛り込みつつ検討継続。 <p>2.専門学校を取り巻く状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校指導要領改訂→教科・科目の再編成 学力の三要素(判断力、表現力、主体性) 学力の評価 ・大学入試選抜方法変更(共通テスト) 三要素評価選抜への転換 ・高等教育の無償化実施→要件の設定に対応 (当校で44名受給) ・リカレント教育充実(生涯学習の必要性)→教育訓練給付金拡充、産学連携 <p>3.事業報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集 入学者：287名(目標値352名、昨年度326名入学;前年比88.0%) 9月度より一般入試のネット出願も開始したが昨年度を下回った。コロナ禍などによる初動の遅れ、大学の巻き返しなどが影響。 ・教務指標 問題の早期発見、解決に取り組み、退学率5%以内目標設定 出席率：96.2%、課題発生率：7.0%、課題残率：0.6%、退学率4.9% となり いずれも改善傾向にあり、目標を達成できた。 ・就職活動 8月末80%内定目標には届かなかったが、年度末には100%を達成。
-----	---

- ・授業問題発見・改善手法：4、5期各教員担当科目1科目選定しカルテ結果、試験結果につき分析実施。
教務上の問題点の提示と改善提案報告書作成。各報告を全員で共有。S-P 表分析法などが提案されるなど、問題点の解決手法につき検討を重ねている。
- ・学習成果の見える化：e-ポートフォリオの充実、学習成果報告展示の実施。
- ・新科設立：新時代を拓く学校創りを目指し学科イノベーションを展開。
IoT+AI科(プログラム、デバイス、通信技術)、データサイエンス+AI科(ビッグデータ分析・予測) 2科を設立(R4年度開講)。ディプロマポリシー、カリキュラム、履修科目、シラバスなどを(株)セラクさんを中心に複数の企業の協力を得て検討・設定。
- ・専門人材未来会議開催：各分野の有識者による講演会・懇談会を実施。各専門分野の発展、人材育成の方向性を探り、新時代の学科のあり方を検討。現状学科の更新と新科構想を練る。
- ・RJP 活動：各科新しい問題発見、新規課題に積極的に取り組む。
建築監督科(教場整備、8階共有スペース美化、教材作成)、
建築科(学内共用スペース改装計画、長野研修センター改修提案、コンクリート材料実験)
インテリア科(学生寮モデルルーム提案(後援会企業より依頼))
情報処理科(AI&IoTシステムの開発(Raspberry Piによる検討))
ゲームプログラミング科(ARスマートフォンゲーム&アプリ開発、ジャイロ機能利用ゲーム開発)、
Web 動画クリエイター科(吉祥寺ハロウィンフェスタ・オンラインイベント企画、卒業式ライブ配信 RJP ペーパー制作他)
バイオテクノロジー科(マウス解剖模型ぬいぐるみ、ハーブ製品開発、オンライン実験教室の検討他)
環境テクノロジー科(柏の宮公園土壌生物調査、同井戸水鉄分除去実験、学内ごみの削減提案他)
- ・高等教育の無償化、支援への対応
- ・リカレント教育の充実(学びなおし)
教育訓練給付金(夜間学生の半分が利用)、
専門人材育成訓制度(バイオ5名、環境5名、Web3名枠確保)、
文科省へ「リカレント教育の取り組み動画」を提供

(3)第三号議案：令和3年度事業計画(白井校長)

1.今年度の方針

- ①エンタランスデベロップメント(募集活動)：
 - ・入学者目標412名を目指す。OCなどもなかなか進まない中苦戦しているが、新科設立もにらみ高い目標を設定。インターネット出願も9月から開始。
 - ②エデュケーションデベロップメント(教育活動)：
 - ・退学率5%以内に抑える→問題の早期発見、解決に取り組み退学率の低減を図る。
 - ・自己改善できる学校創り(教学マネージメント確立)
授業問題発見・改善手法の提案→授業カルテ、履修判定試験結果等から問題発見手法開発
→問題解決するためのコマシラバス改定手法開発
 - ・学習成果の見える化→e-ポートフォリオ、学習成果発表会開催→ディプロマポリシー達成度確認
 - ③中期計画テーマ：DX時代を推進する次世代技術者教育事業の構築
DX=進歩したデジタル技術を浸透させ人々の生活をより良いものへ変革する
→デジタル技術をあらゆる分野へ→工業系四分野(IT・建築・バイオ環境・自動車)を持つ学園の強み
→DX 社会をワクワクさせる学校への進化を目指す。
- ・四つのプロジェクトを開始
- (1)学び満喫拡充プロジェクト：IT新学科2科を設置、しっかり立ち上げる。
 - (2)学び満喫未来化プロジェクト：既存学科のイノベーション
 - (3)学び満喫深堀プロジェクト：
企業連携等探求型教育事業、分野横断型教育事業など新規開発
さらに総合研究科や企業のインキュベーションなども将来設置。
 - (4)学び満喫発信プロジェクト：
専門人材未来会議の継続、
企業連携学科横断による研究機関(TTC ラボ)や、新しい学修環境・ラーニングコモンズ
(TTC プラザ)の開設、などを進めていきたい。

尚三号議案説明終了後、議長より学習成果展示見学について提案があり、参加委員全員で6Fに展示されている各科学習成果の見学を実施した。その後第四号議案の審議に入った。

(4)第四号議案：審議(取り組みに関する意見交換)

議長は学校の取り組み全般に対する各委員の感想や忌憚のない意見交換を促した。
また井坂副校長より審議の主旨について再度説明があり、今年度新規に委員になられた方が多く、資料も多岐にわたるため、感想で構わないので当校の取り組みに関して自由に発言をいただきたい旨のお願いがあった。
以下に各委員の発言概要を示した。

安藤委員(株)miwa、建築科卒業生)：

わが社の問題として、3年以内の離職が多くなっている。卒業後3年間くらい追跡調査してほしい。
経営側からみるとそのような社員がいるとどうしてもその出身校、この学校は…となってしまふ。
またここ数年入学者が増えているということであったが、何が良くてそうなったのか？ 募集というところから企

業としても興味がある。

白井校長:卒業後の離職率については引き続き追いかけていきたい。建築夜間の学生の中には会社を辞めてきている人が多い。高校、大学と良い成績で進み、そして会社に入ったが、ずっと仕事というものに向き合わずにきていて、入社三年ぐらいしたときにこれでいいのか?と考えてしまう。どうもそのような構造的な問題が背景にあるのではないかと。

募集がここ三年で1.6倍ほどになった点については、学内の意思統一、AOという仕組みの対応、そして大学の定員抑制などの外部要因などがある。留学生も増えていたが、テクニカルカレッジはその割合は少ない。その他細かい努力をかなりしているつもりである。

澤坂委員(㈱Artisan、ゲームPG科卒業生):

新学科の就職先についてどう考えているか。新しい専門職としての仕事を創る。例えばユーチューバーは以前片手間でやっていたことであつたが、今や仕事として成立するようになった。このようなものかと。

これまでないところに専門職として切り込んでいく形になる。飛び込み営業に近い就活になると思う。

二年間の間に学校側として切り込む先を開拓しておくこと、根回しが必要かと思う。その計画は立てているか心配。自動車や建築のようにすでに確立している職業に対して、このような人材ですと紹介するのは良いかと思うが、新しい仕事(まだ確立していない仕事)に対してこの人材ですと紹介するのは難しいように感じる。そこを踏まえることが必要かと。

藤沼委員(バイオテクノロジー科卒業生):

新科特にデータサイエンス AI科はテクニカルカレッジにとって+になると思う。米国の大学のようにメジャー、マイナーの考え方を取り込んで、より良い学びの場を提供してほしい。

三浦委員(建築科保護者(インテリア科卒業生)):

もともとこの学校の卒業生ではあるが、子供が建築の勉強がしたいということでOCに参加。非常に細かいケアと充実した施設で学べる、と思い入学させてもらうことになった。自分が通っていた時期よりも進化している。いろいろなことが学べると思っている。

白井校長:昔とだいぶ違いますか。

三浦:基本的にやっていることは同じだと思うが、ITとかCADとか進化している。自分も建築系に絡んでいることもあり、子供と一緒に学びたいと思っている。

長田委員(ゲーム科保護者):

学校についてはパンフレットを見て、OCでお話を聞いたところまでの理解であつた。本日は話を聞いて先生方の努力を実感した。感謝の気持ちで一杯です。またこのようないろいろな話に参加できる機会を得られて感謝している。

多田隈委員(バイオ科保護者):

おとなしい子供で、だれにも質問できないという点で出遅れてしまうのではないかと心配している。先ほど学科の先生とお話し、見ていただけている様子がわかり安心している。履修報告をもらっているが、見方がわからない点があるので教えてもらえればと思っている。

白井校長:ご子息は入学後変わりましたか。

日々プレッシャーがあるようだ。毎日遅くまで勉強はしているが、正しく理解できていないかと。

時間を掛ければ良いわけではないので、効率の良い正しい勉強の仕方を早く見つけてもらいたい。

入学により変わってきているとは思ふ。

中山委員(有限会社イプシロン、東京商工会議所):

・当社はウェブを生業にしている。業務の特性の一つで比較的早い段階、10年ぐらい前からオンラインを業務に利用しているが、世の中が変化の中で試行錯誤をしている。報告に出席が良いが試験は悪いことや、突然の退学などがあるとのことがあつたが、オンラインではコミュニケーションが難しいという点で、もがいている感じがする。

・就職活動をオンラインで行う為、対面では見えなかったところが見えてくる部分があるので、変化があつた時にどう対応するのか(オンラインだからこそ見せる部分)が大切になる。

・DXは重要であるが目先の部分にとらわれないようにする必要がある。普通の人あまり考えないようなことに挑戦している人、いわば未来を作っている人達がいる。特に若い人には狭い視野にとらわれずに、大局的に世の中がよくなっていくには…というような気持ちを持って、目先のことを勉強して貰えれば良いかと思う。

杉山委員(中野コンテンツネットワーク、区議会議員):

・DXに関しては、エボリューション(進化)ではなく、レボリューション(改革)である。スピードが大切で、ゆっくり進んで行くのではなく革命を起こさないといけない。先生方の働き方、生徒との関わり方もDXの内側に含まれる。これからどのように授業を進めて行くか。その改革を進めて行く必要がある。

・バイオや環境など多くの学科がある中で、自治体と何かしらの連携を推進する事が大切だと思う。やっているようでやっていない。実績を作っていくことである。それが就職にもつながっていく。その道を広げる努力をしてほしい。

佐々委員(NPO 暮らしとバイオペラザ 21):

- ・ぬいぐるみの解剖は興味を持っていた。動物愛護&福祉の観点からも生命倫理の観点も考えて、充実した教育を進めて欲しいと考えます。
- ・DX 推進が先生方のプレッシャーにならないか心配である。先生方の仕事量についても検討が必要。
- ・デジタルだけではなく、やはり人との交流を考えてアイデアを出すような形で膨らませて行けると良い。例えば経済や芸術といった他分野の学校とも、場合によってはコラボするなどしてはどうか。RJP の拡大なども先ほどの行政のお話も含めて、夢をふくらませては良いのではないかと感じた。

島田委員(エーピージーエムデザインアトリエ、法政大学大学院デザイン工学研究科、インテリア科講師):

- ・RJP 第一弾テラカフェは非常に良かった。学生たちが手を組んで1つの目標に向かっていくのは学校ならではの特色があった。また他学科の教員たちとのコミュニケーションも重要だった。これを拡大していくとよい。
- ・未来会議については、教職員向けに多くの学びの場があるので、これの学生版があると刺激になって良いのではないかと? または他学科の授業を受けられることができると面白いのではないかと? スペシャリストも大切だが、分野横断型のマルチプレイヤーの育成教育もできると面白いと思う。

杉岡委員(㈱ユニバーサル・サポート・システムズ、キャリアマップ運営):

- ・RJP 活動は将来の就職先を取り巻く環境を学べる良い機会である。この経験の蓄積は財産になると感じた。
- ・離職率、退学率の改善について考えるとき、就職をゴールとせずその先について向き合っていく必要がある。相互理解をすることが大切。企業ではミッション、ビジョン、学生は生き方、働き方が重要。
- ・次回はインターシップについてどのように取り組むのか聞かせて欲しい。

松本委員(㈱進研アド):

- ・ここまで学習成果の見える化を行っている学校は無いと思う(大学も含めて)。引き続き他学校が危機感を覚えるような取り組みを進めて、御校の存在感を示していただきたい。そしてその活動が高等教育機関における専門学校のプレゼンスの向上につながるものと考えている。

三浦委員(㈱リクルート):

- ・大阪の日本分析化学専門学校はかなり近いことをされている。しかし方向性は違う。チェックバック手法開発で(SP 表)について少し気になっているのですが、AIをつかうのか?
- 白井校長:まだそこまで。実は表をつくるのでも相当の時間が掛かっている。現在は成績のデータをどのように集めるかが問題である。定期考査の結果を効率良く進める工夫、これも含めたチェックバックの手法を検討するという事です。ただ SP 表にこだわるわけではない。
- 三浦委員:今年の新入生はオープンキャンパスに殆ど参加せず学校を見ていないようである。これはミスマッチが起きる可能性が高い。5%の退学率をいかに確保するか、今まで以上のケアが必要かと思われる。
- 白井校長:OC で共感を得ること、納得してもらい共感した人に入ってもらおう。この考え方を素直に入学希望者に伝えていきたい。

吉田委員(㈱ビーアライブ):

- ・ここは大学ではない(研究機関ではない)ので AI についても、今後どのように役立てていくのかという視点を持った学生を育ててほしい。
- ・遠隔授業で成績が落ちたとのことであるが、学生同士や先生とのつながりの低下が背景にある。それが遠隔をやって浮彫になった。いままで見過ごしていた(遠隔事業を行ったことで見えてきた)コミュニケーション問題、学力低下問題が生じているはずなので、ここを分析して今後の授業に活かしてほしい。

岸委員(東中野五丁目小滝町内会):

- ・これまでこの学校は面倒見がよく、先生は生徒を細かく支えているので素晴らしいと思っていた。本日は作例を見て、学生が一生懸命表現しようと取り組んでいる様子が見える。課題発生率が下がっているのは、マネージメントもさることながら先生方の人間力が大きいのではないと思う。

白井校長:たくさんのご意見に対して、纏めて整理して今後回答させていただきます。

厳しいご意見もございましたが、よく考えて前に進みたいと思います。

井坂副校長: 就職先についてお話ありましたが、我々も注意して進めて行きます。学園の利点として自動車系などもあり、他分野の企業に対しても積極的にアプローチして企業開拓を進めるようにしていきたい。

白井校長:AI新科の教員、学科長も決まりつつあります。次回ご紹介させていただきます。

渡邊議長:関係者として評価を行いたいと思います。いずれもテクニカルカレッジらしい改善の取り組みであると評価します。今後の活動の改善努力について進捗や取り組み内容も含めて今後も公開もお願いします。これで閉会いたします。

白井校長:今日は初回ということもあり硬い雰囲気でありましたが、二回目以降はもう少し楽なお気持ちで参加いただければと思います。

本校舎の裏にどら焼きの皮を作っている職人さんがいらっしゃるのですが、その方をお願いしてttcの焼き印入

りどら焼きを作ってくださいました。またRJPで開発したオリジナルブレンドコーヒーもお土産です。ぜひご家庭でご賞味下さい。長い時間ありがとうございました。

井坂副校長:渡邊議長、スムーズな議事進行ありがとうございました。これもちまして会議は終了となります。次回は11月26日金曜日を予定しております。今後とも当校の教育にご理解とご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

以上